

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300537		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	グループホームアルコート並木		
所在地	郡山市並木2丁目18-76		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年12月27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の方との共同生活介護として、ご利用者様がご自宅で生活されてきたことを継続して行えるよう支援し、家事(料理、洗濯や掃除等)を職員と一緒に行うことで家族のような関係と、認知症やADL低下の予防に努めています。</li> <li>・法人内で研修体制を整えており、新卒入職者や中途採用者も研修を通して学ぶ機会を設けています。初心者でも介護の基本などが理解できるような勉強の機会を設け、コロナ禍でもWebによるグループ内研修に積極的に参加できる様に努めています。スキルアップに向け、KOYAMACollegeへ参加し、介護福祉士国家資格取得へ向けた学習に取り組んでいます。</li> <li>・春取りや身体拘束廃止に向けた勉強会の機会があり、ご利用者様の意向に沿ったケアが出来るよう取り組んでいます。</li> <li>・コロナ感染症の影響で地域密着型施設としての関わりが難しい中、ブログを通じて施設と地域との関わりが継続できるよう努めています。開かれた行事が出来ない中、ご利用者様の意向を取り入れた行事を開催し、ご利用者様に喜んでいただける施設作りに取り組んでいます。</li> <li>・事故防止に取り組み、インシデント分析を継続して行い、大きな事故なく安全に過ごして頂くことが出来ています。</li> </ul>
---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年間防火管理・消防訓練計画に基づいて、毎月防災訓練を実施し、その中で年3回、夜間火災を想定し実践しながらの「ワクドキ訓練」を実施している。また、事業所近くに一級河川が有る為、避難先としての同法人の施設への避難道路の確認、距離・時間を実測しシミュレーションして災害対策をしている。さらに、BCP(業務継続計画)を策定し、運営規程の中に示し、利用者の安全、安心に備えた取り組みをしている。</li> <li>2. 24時間シートに1時間毎に、利用者の様子と実施したサービスを記載し、状況が良く分かるようになっていた。また、ケアプラン作成にあたり、アセスメント、モニタリングを繰り返し、利用者や家族の意向に添うよう職員がチームとなってサービス提供に取り組んでいる。</li> </ol>
--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自事業所の理念を決める際は、職員に意見を出してもらい、意見交換しながら決めていきます。見て頂ける場所に掲示して、いつでも確認が出来るようにしています。地域との交流が継続出来るよう理念に取り入れています。	理念は、年度末スタッフから意見を募り、地域密着型サービスの意義をふまえたものを作成し、年度当初の会議で周知している。職員が常に確認できるよう、目に付く玄関先に掲示し、共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入り、回覧板で地域の行事を知り参加していましたが、コロナ感染により参加できていません。例年であれば、文化祭などへ参加しています。日常的にサ高住や小規模との関わりを続けていますが、感染予防の観点から関わりが難しくなっています。夏祭りなども共同で開催することが難しい状況です。コロナ前であれば、「百歳体操」へ地域の方の参加もあり、交流が図れていましたが、現在はホーム内でのみの実施となっています。防災訓練への地域の消防署員の参加があり、地域の方との連携を図ることが出来ています。	現在は町内会活動も公園の草むしり程度で他の活動は自粛しているが、季節の野菜が届くなどの日常的な交流は保たれている。また、以前は、保育園、小中学校生徒の訪問や週1回地域の方の参加を得て百歳体操をしていたが、現在はグループホームのみで実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への関わりや理解をしていただける機会として、近隣の保育園や中学生の訪問などあったがコロナ禍により昨年度に続き中止となっている。地域貢献として認知症サポーター養成講座の開催へ講師として参加しているが、今年度は参加できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響で開催が出来ていないが、開催月には事業所の取組みななどを資料でお知らせし、必要に応じて意見が頂ける体制づくりをしている。また、挨拶などに伺った際に近況をお伝えしている。	定期的に、書面開催を実施し、事業所の状況を丁寧に記載した内容を郵送している。委員へは、書面開催で実施することや報告書を郵送したことをその都度電話で連絡し、その際に意見等を伺いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	例年市の介護サービス相談員と毎月関わる機会があり連携が図れていたが、コロナ感染の影響で市町村との関わりをとることが難しい状況にある。コロナ予防対策などの情報は市への情報提供などを通じて連携が図れている。今後介護サービス相談員の方の訪問が開始されれば、連携を図り協力関係を築いていきたい。	介護保険の認定調査や報告・相談に担当窓口へ出かけ、協力関係を築くように取り組んでいる。また、管理者は、キャラバン・メイト(認知症サポーター養成講座の講師役)として活躍することもあり、担当者と顔なじみの関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の開催は3ヶ月に1回実施されており、勉強会の開催も行われている。会議の内容の周知や勉強会を通じて、職員が身体拘束の内容の理解やその弊害について理解している。日常の不適切なケアが身体拘束に繋がることを意識して、職員全体で取り組んでいる。玄関の施錠についても身体拘束であることを理解し、安全にお過ごし頂きながら、ご本人様の自由な暮らしを支援できるよう取り組んでいる。	指針に基づき、3カ月に1回定期的に身体拘束廃止委員会を開いている。委員は、グループホームと同階に有る小規模多機能居宅介護の職員で構成され、勉強会を行っている。その後、グループホーム職員会議の中で報告と勉強会を行い、周知徹底に努め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する勉強会の開催を行い、不適切なケアの理解と共に職員間で指摘し合える環境作りに取り組んでいる。日常のケアがグレーゾーンに無いか振り返る機会を設けている。経験の浅い職員も理解できるよう、対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修で介護保険制度について学ぶ機会があり、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について理解している。また、お客様で成年後見人制度を利用されている方も居り、支援が出来る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用開始前や介護保険制度改定時などは、ご家族様に重要事項説明書や契約書にてわかりやすく説明し、理解を得ている。介護度の変更があった際も、都度ご説明し、不安などがきかれた場合はご家族様の立場に立って相談に応じている。いつでも相談できることを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の要望はお客様会議や日常の会話の中で伺い、ご家族様からはアンケートや面会カードのメモ欄などを利用してご意見や要望を伺っている。また、電話での連絡時にもお話を伺うようにしている。コロナ禍の前には、家族交流会や運営推進会議などを通じてご意見を伺う機会があった。また、玄関にご意見箱を設置している。頂いたご意見や改善策は掲示、郵送にて対応している。	利用者からは、日々の関わりの中から意見を聞くよう努めるほか、お客様会議で行事内容や食事等の意見をいただき採り入れている。家族からは電話連絡時に意見を聞くように心がけている。また、年1回家族アンケートを実施し、家族からの要望等にきめ細かく対応し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している部門会議などで職員から意見を募り、会議で話し合ったり、ミーティングで対応している。現場の意見を聞いて、運営に活かしたり利用者の状況に応じて対応している。必要時には上司に報告し対応している。目標管理の個人面談でも困りごとや意見希望なども聞いている。話やすい雰囲気作りを努めている。	管理者は、職員会議で意見を出してもらうほか、年2回目標管理の個別面談で意見提案を聞く取り組みをし業務改善に活かしている。また、日々職員の体調に変化はないか、顔色を観察し健康管理に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や職員個々の目標設定時にはやりがいをもって行えるよう、得意なことを聞いて取り入れたりし向上心を持って取り組めるようにしている。職務に関しては、毎月希望日に休めるよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での階層別研修に新入職員や中途採用者も参加し、ケアの質の向上に繋げるよう努めている。各職員の経験に応じた学びの場を設けることが出来ている。法人の勉強会への参加や事業所内でも様々な勉強会を開催し、職員自らの向上につなげている。また、介護福祉士の取得に向けて法人内研修に参加し資格取得が出来るよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ入会し、機会があれば地域の情報交換会に参加していたが、コロナ感染拡大と共に機会がなくなっている。郡山市で開催している認知症サポーターの交流会などへ参加し、交流することでサービスの質の向上に努めていたが、今年度は参加できていない。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談から、利用に至るまで実態調査等でご本人様の困りごとや不安などを聞くようにしている。ご本人様の気持ちが聞き取れない場合はご家族様からお話を伺うが、本人の気持ちを受け止めるよう努めている。聞いた内容はカンファレンスなどで情報を共有し、安心して生活が送れるようケアプランに取り入れている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みがあった時や実態調査時などにご家族様の困りごとや不安、要望に耳を傾け、伺った要望などをサービスに取り入れることで関係づくりに努めている。ご本人様だけでなくご家族様との関係が築ける様、お話を伺っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の内容から、ご本人様やご家族様がどのような支援を必要としているのか、よくお話を伺い見極めながら支援している。「その時」のニーズによって必要であれば他の介護サービスに繋げられるよう説明や支援を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様が介護される側とする側でなく、共に支え合える関係で、お客様から様々なことを教えて頂いたりしている。お客様同士が生活レクや生活リハで協力して行える場面作りを支援し、本人の個性や力が発揮できるよう努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人様とご家族様の関係が継続でき、一緒に支援しているという関係性を保てるよう、電話連絡や広報誌などを通じてご本人様のご様子をお伝えしている。コロナ感染前はご家族様が参加できる行事なども企画していたため、今後感染状況により企画していきたい。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と協力し外部受診の支援などを行っている。感染状況が落ち着いているときには、馴染みの方との面会の支援を行い、場面作りを行っていた。コロナ感染により、外出の支援が出来ないが、感染状況を見ながら面会や外出の機会を設けていきたい。各月ではあるが、馴染みの訪問理容の方との関係が継続でき、馴染みの関係が保てている。	コロナ禍で家族との面会は窓越しで行い、知人の訪問は自粛していただいている。毎月の通信に利用者の様子を撮った写真とコメントを載せ、SNSで事業所の様子を発信し、家族との関係が途切れないよう支援に努めている。また、訪問理容師を受け入れ、馴染みの関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った方とゆっくりと過ごせるよう席の工夫をしたり、仲介することで利用者様が心地よく過ごせるよう支援している。レクや生活リハなどでお互いが関わったり、助け合いながら過ごせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後も継続して関わり、戻ってこられるまで心配事などが無いかお聞きしたりし関係が途切れないよう支援している。ご逝去で退居となった場合も、後日お手紙などで懐かしいお話をお伝えすることで関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やお客様会議でご意見やご要望を伺いその方にあった暮らしが出来るよう支援している。お話が聞ける様質間に工夫をしながら伺うようにしている。会話が難しい方には、ご家族様に以前のご様子を伺うなどし意向を把握するようにしている。ご意向はカンファレンスや申し送りで情報の共有をし、ケアに繋げている。	希望・要望を話し合う場としてお客様会議を設けている。職員は、日々利用者一人一人の思いや希望に寄り添い、思いを汲み取るよう努めている。意思疎通が困難な方へは、職員間で話し合ったり、家族からの情報で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に今までの生活や趣味などを伺い、馴染みの暮らしが継続できるようにし、職員間で情報の共有を行っている。また、以前利用していた事業所から情報を伺うなどしサービス利用の経過なども把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを利用し、ご利用者様の一日の流れを把握し、生活リズムの把握に努めている。体調の把握や出来ることの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当制をとり、ご利用者様毎に良い理解者となり、関わることでご意向を伺ったり、思いを知ることが出来るよう努めている。ご家族様からも意向確認し、情報の共有を行い、話し合った結果をもとに介護計画を作成している。3ヶ月ごとにアセスメント・モニタリングを繰り返し、職員が活発に意見を出し見直し、現状に沿った介護計画を作成している。	入居時1~2カ月のケアプランを作成しその後3カ月ごとに見直しをしている。担当職員がモニタリングを行い、カンファレンス会議前に家族の意見を電話で伺い、計画に反映させ、郵送で同意を得ている。緊急時は、状況に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアの実施と電子カルテへの入力は御本人様のいきいきとした記録になるよう工夫している。気づきや必要な工夫などは申し送りへ記入し情報を共有している。記録を基に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の様子を毎日の申し送りで情報の共有を行いその都度のニーズに合わせて柔軟に対応するようにしている。受診などもお客様の状態に応じて柔軟に対応している。外出外泊の支援も感染状況を見ながら行っていきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響でボランティアの要請ができてないが、訪問理容などは希望に応じて来ていただき、生活の楽しみとして豊かな暮らしが出来るよう支援している。今後、感染状況を見ながら外出や買い物の支援などもしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が希望する医療機関で適切な医療が受けられるよう支援している。必要に応じて送迎なども行っている。通院が困難になった時は、ご家族様と話し合い、内科や歯科医などご希望の訪問診療医に来ていただくことも支援している。適切な医療が受けられるよう日常のご様子を詳しくDRへ伝え支援している。	入居時、受診先について話し合い、かかりつけ医の継続受診または事業所の協力医療機関の月2回の訪問診療を受けている。特に症状に変化がない場合でも、管理者は受診状況を家族に電話報告している。協力医との連携により、24時間365日の対応が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で状態の変化や気づいた事は看護師へ報告し、確認して頂き、必要に応じて受診対応している。介護職と看護師が関係性を持ち連携を図ることが出来ている。夜間の急変時は看護師の指示を仰げる連絡体制が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報の提供を行い、医療機関やご家族様とこまめに連絡を取り、情報の共有に努めている。入院中の面会もできるだけ行い、病院の関係者と連携を図り早期退院につなげられるよう支援している。ご家族様とも積極的な連絡を取り、ご家族様の要望があればムンテラに同席させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時は重度化看取りに関する指針の説明を行い、書面で同意を頂くとともに、その段階でのご希望を伺うようにしている。ご家族様へは事業所のできることを説明し、DRと連携しながら看取り対応していることを伝えていく。入居後の状態の変化に合わせてご意向は都度確認するようにしている。また、状態の変化により受診が難しく、ご家族様が訪問診療を希望される場合は、ご希望に沿った支援を行い、終末期への体制づくりを行っている。チームとして看取りに取り組めるよう勉強会も実施している。	入居時、「重度化・看取り指針」を説明し、意向確認を行っている。看取り期に入ると協力医が家族に症状を説明し、意向を再度確認のうえ、看取り介護計画に基づき、丁寧なケアを提供している。看取り期には感染に留意して、面会の機会を設けている。看取り後はケアの振り返りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できるよう勉強会を開催したり、例年消防署員講師による勉強会もあり、全職員が実践力を身に付けられるよう備えている。自施設の緊急時マニュアルもあり、マニュアルに沿って対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画に沿って毎月防災訓練や勉強会を実施し、反省点を生かした訓練を行っている。火災・地震・水害想定で訓練を行うことで様々な災害に対応できるよう訓練を行っている。緊急連絡網、通報の訓練を通じて落ち着いた対応できるようにしている。例年9月頃に消防立ち合いの訓練を実施している。非常ベルを鳴らしたり、「ワクドキ訓練」を行うことでさらにレベルアップした訓練を行っている。ハザードマップの理解やアンダーパスについても情報の共有に努めている。例年、運営推進会議の方など地域の方に訓練に参加して頂き、協力関係を築いている。災害備蓄品に関しても、食料や飲料水、トイレなども備蓄し準備している。	法人参加及び防災担当チームマネージャーの指導のもと、年間計画に基づき、総合訓練(うち1回は消防署立ち会い)・部分訓練等を毎月実施している。「ワクドキ訓練」と称し、火災ベルを発報、火災場所をブラインドし、職員を利用者に見立てて、避難・誘導・消火等を体感する、より実践的な訓練も年3回実施している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりに対して、人生の先輩という敬愛の気持ちをもって関わるようにしている。接遇やプライバシーポリシーの勉強会などを通じて名前を呼ぶ際や居室に入る際等も不適切にならないよう努めている。職員間で指摘し合える環境作りも行っている。プライバシー確保に努め、書類の保管やパソコンの管理など具体的な方法について話合うようにしている。	人格を尊重した声かけにも留意し、不適切な対応が見られた際は、職員間で注意し合える関係を築いている。入室時のノックやトイレ誘導時の声かけなどにも、尊厳を傷つけることのない対応を徹底している。プライバシーポリシーに基づき、個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様会議でご要望を伺い、自己決定が出来るよう、小さなことでも伺うようにしている。また、飲み物や入浴時間など小さな自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様それぞれのペースで過ごすことが出来るよう、お好きな場所や見たい番組、その日によってその人らしい生活が出来るよう支援している。起床や就寝、食事その方に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服を選んだり、化粧水をつけたり、髪形もご希望を伺いカットして頂いている。馴染みの訪問理容にかかり、パーマやカラーもご希望に応じて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	嗜好についてはお客様会議で伺い、行事食やおやつに反映させている。食事はチルド食となっているが、盛り付けや食前のテーブル拭き等と一緒にやる事で、食事が楽しめるような支援を行っている。お客様が出来る範囲で行って頂き楽しみとしての支援をしている。おやつ作りも定期的に行い、一緒に作ることで楽しみとして頂くようにしている。行事ではおはぎ作りや菓子作りなどを一緒に作り、行事がより楽しめるよう工夫している。またお誕生日会はその方のお好きな料理やケーキなどを準備し、主役として楽しんで頂ける様にしている。コロナ感染予防の為、一緒に味わう事は難しいが、良い雰囲気作りには努めている。	副食はチルド食、ご飯と味噌汁は事業所で調理している。近所から野菜等を頂き、手料理を一品加えることもある。食材の下処理やテーブル拭きなど、利用者の手伝いも頂いている。曆に合わせた行事食のほか、利用者とは月2回程度おやつをつくる等、食の楽しみを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの食事を把握し、食事形態も食べやすい形状に工夫し提供している。盛り付けも工夫し小盛で提供したり、塩気が好きな方は、ご飯につくだ煮や梅干しをつけるなどし食事が進むよう工夫している。食事が少なくなってきた方は、好きなものや召し上げられるもの、栄養補助食品なども準備し、また医師と相談しながら支援している。水分摂取量にも気を配り、飲みやすい飲料の準備やとろみをつけるなどの工夫、また声かけにも工夫を凝らしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛けし、ご自分でできる方は洗面台まで移動してもらい行っている。できないところは介助させていただいている。うがいが難しい方は、専用のシートで拭く等し、口腔内の清潔保持に努めている。その方の状態に合わせて対応し、医師とも相談させていただきながら支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者毎の排泄パターンの把握に努め、定時に誘導したり、トイレサインがある方は見逃さずに誘導し、トイレでの排尿を促している。一日の中で排泄量の差がある方は、誘導時間を見直すなどトイレでの排泄が継続できるよう支援している。また、排泄パターンは状態に合わせて対応し都度見直している。意思がはっきりしているお客様には特に、声掛け時、羞恥心に配慮し誘導などを行っている。	定時・随時のトイレ誘導のもと、排泄パターンの把握に努めて、自立を支援している。乳製品の提供や適度な運動などにより、過度に下剤に頼らず、自然な排便を促している。個々人の状態に合わせ、パッドやオムツ類を見直し、快適性の向上とコスト削減の意識醸成にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、乳製品の提供や運動、腹部マッサージなどを行い対応している。DRとも相談しながら工夫をし、内服調整も行っている。歩くことも大切にしながら歩く機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴される日のバイタルや様子を伺い体調確認を行い入浴して頂いている。入浴時間も好みがあり、またその日の気分に合わせて対応している。湯加減も都度声掛けしながら調整し、湯船にかかる時間も体調を見ながら個々に支援している。洗身などはできることは行って頂き出来ないところをお手伝いしている。羞恥心や湯船にかかることへの恐怖心が見られる方なども居り、配慮しながら入浴して頂いている。1対1でお話を伺い、入浴時は良く話される方も見られる。毎回入浴剤を使用しつるいだ気分で入浴して頂き、季節行事として菖蒲湯やゆず湯なども実施している。	週2回を基本として、入浴剤や菖蒲湯・柚子湯など、入浴を楽しめる支援をしている。ひとりごとにお湯を張り替え、「熱めの湯」「温めの湯」などの希望にも細かく対応している。介護度が高い等で浴槽に入れない方は足浴とシャワー浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣として昼後などに居室で休まれる方はご自由に休んでいただき、また、ご本人様の意向に応じて居室やソファで休んでいただくなどしている。気分よく休んで頂けるよう、エアコンや布団で調整し対応している。好きな布団の好みもあり、その方に合わせて対応している。また、体調に合わせて居室で休んで頂く時間を設けて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人に対応できるようお薬分包装や内服マニュアルなどを作成し、職員が理解できるようにしている。薬の変更時も随時更新し内服事故防止に努めている。また副作用についても看護師や医師と連携し、内服後の様子には十分に注意している。内服方法についても確実に内服して頂けるよう、ゼリーに混ぜるなど支援している。内服が難しい場合はDRへ報告し、服薬を散剤に変更する等し対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様やご本人様に生活などを伺ったり、日常の様子で好きなことを知り、ケアプランに立案し支援している。お一人お一人が役割をもって生きがいを感じて頂けるよう、様々な支援をしている。洗濯や掃除なども出来ることを一緒に行う機会を設けている。植木の世話が得意なお客様には、水くれや日々の管理を共に行うことで楽しみとして支援している。棟内の掲示物は季節に沿った装飾を一緒に手作りし飾ることで楽しみとして頂いている。嗜好品や楽しみについても、お客様会議で伺ったり、日常の会話で伺いながら提供している。気分転換に共有スペースや外に出るなど支援している。嗜好品などもご希望があれば、支援していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には希望を伺いながら外や花壇・散歩に行くなど支援している。コロナ感染予防から外出支援は行っていないが、今後は検討していきたい。例年花見や紅葉狩りなどは企画を立て出かけていたが現在は出来ない。例年希望のある方はご家族様の協力の元、外食・買い物などの機会も支援している。	事業所の花壇に水をあげたり、近隣の逢瀬川沿いを30分ほどかけて散歩したりと、コロナ禍の今、実施可能な外出の機会を支援している。ベランダやホールなどで日光浴も随時行い、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の管理が難しい方が多く、ご家族様が管理している。今後ご希望に沿ってお金を使ったり、所持したりの支援をしていく。新型コロナウイルスの影響で買い物はできていないが、状況に応じて買い物などにも出かける予定。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご本人様の希望がある際は、いつでも電話が出来る支援している。職員がご家族様へ電話した際は、ご本人様が変わりお話しされることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングは居心地がよく過ごせるよう、温度湿度管理を行い、調光にも注意し、お客様のご意向を伺いながらカーテンで調整している。新型コロナウイルスの影響で空気の入れ替えや、手すりなどの消毒も行い、安全に過ごせるよう支援している。また、壁は季節ごとの飾り(花見、七夕、月見、季節の花など)を一緒に手作りし、季節感を感じて頂くよう工夫している。あまり飾りが派手になり施設感が出てしまわないよう注意している。居室は自宅から馴染みのものを持って来ていただく等し、安心して生活が出来るよう支援している。トイレも落ちついて使用できるよう清潔保持に努め、華美な飾りなどは置かないようにしている。	ホールの壁には利用者・職員の共同作品が飾られ、季節感を味わえよう工夫している。過度な装飾はせず、心地よく過ごせるよう配慮している。温度・湿度、定期的な換気、手すりの消毒、食事後と就寝後のホール清掃等、清潔かつ安心して過ごせる環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内ではテレビ前にソファを設置し、一人や仲の良い入居者様や職員と過ごせるよう支援しています。また、居室で片づけをしたり、テレビを見たり、気分転換に外に出てお話ししたりお好きな場所で過ごせるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室には、入居の際に馴染みの物、趣味の植木、昔の写真などを持ってきて頂き安心して過ごせるようにしている。また、お好きな本やテレビを持ち込まれる方もおり居心地の良い空間づくりを支援している。洋服を選ぶのが好きな方は選びやすいように配置している。自分のカバンやお好きな洋服を壁側に準備し、安心して過ごされる方も居り、落ち着かれるよう支援している。	居室には、家具調ベッド、エアコン、クローゼット、キャビネットなどが備え付けられている。利用者の希望や生活パターン、動線も踏まえて、ベッド・家具等を配置している。自宅で使い慣れたもの、裁縫道具、化粧品など、壁にはレクリエーションの作品や家族写真などが飾られ、居心地よく過ごせる空間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごせるよう、お客様それぞれの動線を考慮した座席にしている。日常生活の中で「できること」「わかること」を見極め、自立した生活を送れるよう職員間で情報を共有し見守り等のケアを行っている。トイレもわかりやすい表示をしているが、さりげなく開いていることがわかるような表示もしている。		